

# 東日本大震災「奇跡の一本松」の高田松原を守る会の活動について

造園緑化コース

## 1. はじめに

インターンシップにおいて私は、有限会社山水園（愛知県名古屋市北区）でお世話になった。その際、2023年10月12日に東山動植物園で開催された「きずなの花プロジェクト」で岡嶋伸夫 山水園社長の講演を聞き、奇跡の一本松や高田松原を守る会の存在について、また、東山動植物園（愛知県名古屋市）に奇跡の一本松の後継樹があることを知った。造園という分野から東日本大震災について関与するというところに、私は興味を持った。

## 2. 「奇跡の一本松」

2011年の東日本大震災で国名勝の高田松原（岩手県陸前高田市）約7万本の松はなぎ倒され、奇跡の一本松と呼ばれる松だけが残った。今は枯れてしまったが、震災直後は現地の人達からは「奇跡の一本松」や「希望の松」と呼ばれ、震災から復興への希望を象徴するものとして捉えられるようになった。奇跡の一本松は復興を象徴するモニュメントとして残すこととなり、幹を防腐処理し心棒を入れて補強し、枝葉を複製したものを付け替えるなどの保存作業を経て、元の場所に建てられている（写真-1）。



写真-1 奇跡の一本松<sup>1)</sup>

## 3. 高田松原の歴史

高田松原は陸前高田市の海沿いにある海岸林である。はじめは江戸時代初期に防災や高潮、潮風、飛び砂などの害から田畑を守るために菅野杵之助によって植林が始まった。それから40年後に松坂新右衛門による造林が行われ、その後、陸前高田に住む人達により、合計7万本のアカマツとクロマツが植えられた。この松林は1940年11月に国名勝に選ばれ、白砂青松の景観が世に広く評価された。

## 4. 高田松原を守る会

高田松原にマツノザイセンチュウの被害が確認され、このままでは他の松に移ってしまう可能性があり、防除や管理、周辺の除草などを住民が行っていた。高田松原を守る会は、これらの活動を発展させるため2006年に江戸時代の松植栽の先人の意思を大切に、国立公園や国名勝に指定されているこの美しい松原を後世に残すために、陸前高田市と高田松原を愛する市民ボランティアが一緒になって発足した。

### （1）震災後、現地で行っていること

高田松原を守る会の目的は、高田松原のきれいな景観の維持だったが、東日本大震災の後には高田松原の復興に目的が変わってしまった。震災後に残った一本松は翌年枯死が確認されたが、現地での人工的保存と共に、採取した種や枝の接ぎ木による後継樹の育成が開

始された。

## (2) 名古屋市と現地の関り

名古屋市と現地の関りとして、名古屋市と陸前高田市の中学生との交流会が行われ、実際に現地を訪問したり、リモートで意見を交換し合ったりと定期的な交流を行い、震災発生時の状況や命の大切さについて話を聞き、質問し、関りを深めている。陸前高田市の中学生が名古屋市を訪れた際は、東山動植物園に訪れ、奇跡の一本松の後継樹（写真-2）を見学した。

## (3) 名古屋市での活動

東日本大震災後、復興のシンボルとなった陸前高田市の奇跡の一本松の後継樹（接ぎ木育てたクローン）が、2021年3月23日、陸前高田市への職員派遣などを続けてきた名古屋市との「絆のシンボル」として東山動植物園に贈られた。贈られた松は名古屋市長と陸前高田市長の手によって植樹された。



写真-2 奇跡の一本松後継樹  
（東山動植物園）

そして東山動植物園では偶数月の第2月曜日に岡嶋社長や高村造園の菊池さんを含む4人が大きさや土壌酸度などの測定を行っている。そして岡嶋社長が後継樹からとれた松ぼっくりから種を取り、そこからポットで育てていき、育ったら名古屋市内の中学校に配る活動を始めようとしている。

## (4) その他の奇跡の一本松

奇跡の一本松のクローンは現地以外にも愛知県に4か所（菊井中学校、楠中学校、楠西小学校、小牧ワイナリー）、岐阜県に1か所（恵那市らっせいみさと）、島根県に1か所ある。島根県にあるクローンは、出雲大社にある。2016年3月19日に出雲大社へ奉納された。

## 5. まとめ

これまで東日本大震災について名古屋の造園や造園業は関りが多くないと思っていたが、奇跡の一本松の後継樹の植栽活動を調査した結果、活動を行っている造園家がいることが分かった。造園には高田松原を守る会のように松の管理をするのはもちろんのこと、災害によってなくなってしまった高田松原の復興やボランティア活動をさらに発展させる仕事があった。奇跡の一本松の後継樹はまだ数が少ないものの管理できる人も少ないと感じた。そこで岡嶋社長が「私以外にも管理できる人はいると思うが、その時、時間的、技術的に管理できるのは私しかいなかった。」と仰っていた。今後、どのように後継者を増やしていくことが課題であると私は思った。自分ができる解決策として、SNSが発展している今の世の中で、情報を発信し、現在の活動内容を伝え、どのような問題に直面しているかを少しでも多くの人に広めることができればと思う。

## 参考文献

1) <http://www.uchinome.jp/mitearuki/mitearuki.html>